

みばやし
三林 裕先生
(七尾市医師会 会長
三林内科・胃腸内科医院 院長)

地域に信頼される医療連携の構築 「顔が見える信頼関係を築くことが重要」

病院に関わる法人のトップの方と川口病院事業管理者が
医療界を取り巻く現状について本音で語り合うコーナー。
第2回目は、七尾市医師会長の三林裕先生と対談しました。

※国の医療政策の下で、全国で医療崩壊が叫ばれている現状について、どのようにお感じですか。

三林 「マンパワー不足」と「国の医療費抑制」この二つの点について、大変心配していますね。

川口 当院ではこれに巻き込まれることなく、この地域の医療福祉に関係する全員、特に開業医の先生方と一丸となって協力しなければならぬと思っています。

※開業医の先生方との連携こそ問題解決の道と思われませんが、医師会としてどう捉えておられますか。

三林 私が能登病院に赴任した頃の30年前と比較してみても、病診連携の基盤は確立されたと思います。具体的には、軽症患者の外来を担当する診療所



に対し入院が必要な重症患者を担当する総合病院とが連携しあっている現状や、休日当番医制度や小児夜間診療などでの病院勤務医への支援などです。

川口 能登病院は、地域の方々の意思で設立された趣旨からこの地域の医療を守る最後の砦にしたいと思っています。

※この地域には恵寿総合病院と能登総合病院が救急などを担当し、開業医の

先生方と一緒にあって医療の提供を行なっておりますが、この二病院がどのような形で進んでいくのが適切とお考えですか。

三林 地域に二つの総合病院があることは、住民の皆さんにとっても、診療所医師にとっても決して悪いことではないと思います。むしろ、それぞれはこれまでの歴史があり、それぞれのよいところを活かし、切磋琢磨しながら存続していくことが望ましいと思います。医師会としても両方とも協力しあっていきたいですね。

川口 この二つの病院の一つが駄目になれば、この地域の医療はたちまち崩壊するだろうと考えています。当院も麻酔科医不足で大変な時期もありましたが、今春からは常勤の麻酔科医も確保できる見通しであります。救急にしても、小児・産科にしても二つの病院で適切に分担しているために成り立っている医療だと思っています。

三林 診療所医師は自分の専門分野でも、一次の患者さんを診断治療し、二次になると大病院に紹介するという方がほとんどだろうと思います。こんな症状の患者さんは、この病院のこの先生にお任せしようと思われ紹介するというのが大事なことだと思えますね。

川口 能登病院としては、開業医の先

生方にどんどん逆紹介し、外来をスリム化することに取り組んでいます。まだ混雑しています。今後開業医の先生方にはまだまだ逆紹介をさせていたいただきたいと考えています。能登病院は、これからも急性期に特化し、入院医療に重点をおくことで、本来の力を発揮できると思っています。

今後ますます、地域医療の連携を推進し、密度の濃い地域医療連携に取り組んでいきたいと思っています。本日はありがとうございました。

